きなさい、違う！！パパは俺じゃない！というか、家族じゃないし！え・・・家族になります

美羽派の男Ａ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
パパのいうことを聞きなさい、違う！！パパは俺じゃない！というか、家族じゃないし！え・・・家族になりますか？なります！！！

【Ｎコード】
Ｎ６７３６Ｙ

【作者名】
美羽派の男Ａ

【あらすじ】
空を見ていたら豆腐が落ちてきて、顔面に当たりショック死
そして、神様が可哀想だから、転生さしてあげるといい、お言葉に甘えて転生、そして、転生先は「パパのいうことを聞きなさい」の世界だった。
これから始まる、どたばたネタ有り、恋有りの物語

※作者は初心者です、コメントをくれれば嬉しいです

説明

えっと、こんにちは、もしくは、こんばんは。

この作品は僕の大好きな作品「パパのいうことを聞きなさい」の二次創作です。

この作品は転生物です。バトルは有りません。

まぁ、当たり前ですけど。駄文です・・・・まぁ、書いている内に治して生きたいです。

そして、独自解釈などいろいろありますが、気にせずに読んでくれると嬉しいです。

そして、作者は受験生です。あんまりかけません、ですけど、受験が終われば、たくさん書きたいです。

そして、自分は空派ではなく美羽派です。

無印～転生編～（前書き）

どうぞ、駄文ですけど

無印～転生編～

主「あれ？ここてどこだろう？」

神「ここは、あの世じゃ」

なにを言っているんだ？このはげて白い羽を生やした痛い爺さんは

神「お主は死んだんじゃよ・・・」

主「は・・・死んだ？それは、嘘でしょ、僕はただ新刊を買いに本屋に入って帰ってる途中で上を向いたら豆腐が降ってきて、それを顔面に喰らっただけどよ・・・死ぬ要素なんて、どこにもないじゃないですか」

神「ふむ、では、これを見てみるのじゃ」

といい神様（痛いじじい）はＰＳ○を僕に渡してきた

主「え・・・これは？ＰＳ○？」

神「そうじゃ、Ｐ○Ｐじゃ」

なんで、ＰＳ○渡されたんだ？あれ、勝手に電源が付いた・・・・

そして、画面内から動画が移りだした

～画面内～

一般人Ａ「おい！なんか、豆腐が顔面に当たって倒れたぞ！」

一般人B「なんで、上から豆腐降って来たの？」

一般人C「それより・・・・この本・・・・」

一般人E「それを言うな・・・・・」

医師　「死んでます・・・・・」

一般人達『マジで？』

医師　「マジです」

～終了～

はは・・・・なにこれ・・・・よく出来てるな～最近のドッキリは・・・・

神「これは、ドッキリじゃないぞ・・・・」

主「嘘だ～、そんな、豆腐が空から降って来て死ぬ人なんて、居るわけ無いじゃん」

神「現にわしの目の前に居るんじゃが」

そう言いながら、僕に指を差してきた

学校で人に指差すなて習わなかったの？

主「神様・・・・指差さないでください」

神「おう・・・すまんすまん」

～１０分後～

神「という訳でお主を転生させてやる」

主「まじすか？」

神「まじじゃ」

よっしゃー、第二の人生来た！！

しかも、なんか、スキル付けてくれるらしいから、ラッキーだぜ

神「決まったかの～～？」

主「神様その前にさどこの世界に行くの？」

神「別にどこでもいいぞ・・例えば、Ｆａｔｅの世界とか」

主「あれ？神様Ｆａｔｅ知ってるの？」

神「当たり前じゃ、天界では有名な作品じゃぞ」

へぇー、有名なんだ、と、その前にどこの世界に行くか決めないと・・・

主「学園黙示録・・・・死ぬな・・・　Ｆａｔｅ・・・・巻き込まれて死ぬな　北斗の拳・・・・チンピラに殺されるな・・」

そう考えてるとき、僕のポケットに携帯電話があることに気づいた

主（まぁ、携帯で探すのもいいか・・・）

といい、僕は携帯を開いた

主（あ・・・この世界いいなー）

主「神様決まりやしたぜ」

神「どこじゃ？」

主「パパのいうことを聞きなさいと言う小説の世界にいきたい」

神「本当にそこでいいのか？」

主「あぁ、大丈夫だ」

神「では、世界は決まった、次はスキルじゃな」

もうスキルも決まってるぜ

主「無窮の武練と黄金律と怪力のスキルを頂戴な」

神「ふむ・・・・いいじゃろう」

主「ちなみに、全てＥＸでよろしく」

神「欲が強いの～まぁ、いい姿はわしが勝手に決めとくからの～」

そういうと、神様はＰＳ〇を持ち、作業をし始めた

そして、僕の目の前になにかのデータが出てきた

筋力：Ｄ－　耐久：Ｃ　敏速：Ｄ－　魔力：Ｅ　幸運：ＥＸ

スキル：無窮の武練：ＥＸ　黄金律：ＥＸ　怪力：ＥＸ

神「これでいいかの～？」

主「十分だよてか、なんで、Ｆａｔｅ風？」

神「気分じゃ」

～１０分後～

神「では、楽しんでくるんじゃぞ」

主「言われなくても、じゃあな」

そういい僕は落ちていった

無印～転生編～（後書き）

筋力とかいろいろありましたけど、スキルと幸運以外あんま意味ありません

そして、最後まで読んでくれてありがとうございます。

駄文ですが感謝です

無印～過去編1～（前書き）

駄文をどうぞ

無印～過去編1～

さて、僕が転生して5年目の夏が来ました・・・・

この5年間原作キャラに会っていません、というか、僕はなんで毎年、東京ビッグサイトに来てるんだろう

始めは、一回も行っていないから「やったぜーーーーーー！！！！」と一歳の時はそう思ったよ、けどさ、子供の僕が毎年ここに、連れてこられて子供の体力舐めるなよ！！

ま・・・今年は仮面ライダー龍騎の同人誌でも探すか・・・・

母「どうしたの？奏」

あ・・・今喋ったの母さん、ちなみに、奏は僕の名前だ苗字は橘合わせて読むと　橘（たちばなかなで）　奏

父「大丈夫か？まさか、日射病か？」

奏「いや、父さん、母さん、なにもないよ・・・」

母「それにしても、やっぱり、奏は女の子ポイわね」

父「そうだな」

そう、俺の容姿は女の子ぽかった・・・たぶん、神様のせいだ　ま・・・ちゃんとスキルが発動してるから許すけど

母「それより、開いたはよ」

父「では、諸君等の無事を祈る」（敬礼

母（敬礼

奏（敬礼

そうして、僕らはそれぞれ自分の趣味の所に歩き始めた

父：アイドルマスターなど　母：デュララなど　奏：仮面ライダー系

さぁ、始めるか・・・・戦争を　持ち金（３００００円）なんでこんなにあるかって？黄金律のおかげだよ

～～５０分後～～

かなり買えたよ・・・・ホッパー兄弟、王蛇などちなみに、僕は悪役が好きだ

？「お母さん？どこ？」

目の前にうろうろしている、女の子がいる・・・・・・え・・・まさか、コミケで原作キャラに会うなんて

まぁ、まずは、話し掛けよう

奏「どうしたの？」

？「お母さんとはぐれちゃったの」

よく思えば、僕と同じくらいの年齢じゃん

奏「一緒に探してあげるよ」

？「いいの？」

奏「いいよ、今暇だったから君の名前は？」

？「私の名前は小鳥遊（たかなし）　美羽（みう）5歳よろしくね」（笑顔

わぉ、笑顔可愛い

美「お兄ちゃんは？」

奏「僕の名前は橘　奏、美羽ちゃんと同じ5歳、お兄ちゃんじゃないよ」

それから、僕達は探した

～～10分後～～

美「もう、疲れたよー」

奏「大丈夫？もう少しで見つかると思うから、もうちょっと探してみない？」

美「わかったよ・・・お兄ちゃん」

奏「お兄ちゃんじゃないよ」

ー美羽ＳＩＤＥー

もう、足がくたくただよ、お兄ちゃんがもう少しで見つかるてさっきから、いってるけど全然会えないよ・・・

それに、お兄ちゃんもキツそうだし・・・あれ？本当にお兄ちゃんて男の人？

見た目適に女の人に見えるけど？

美「ねぇ、お兄ちゃんて男の子だよね？」

奏「うん、そうだけど・・・どうしたの？」

美「なにもないよ」

うーん、やっぱり、女の子ポイんだよな～

まぁ、いいや

あ・・・お母さんたちだ！！

ー奏ＳＩＤＥー

ぜんぜん、見つからないなーというかどんな人か覚えてない・・・・

美「お兄ちゃん、お母さんたち居たよ！！」

お・・・見つかったんだ、よかったじゃん

？「美羽！！大丈夫だったか！」

たぶん、お父さんだな

？「心配したんだからね！美羽！」

お母さん、だな

？「大丈夫だった？美羽？」

お姉ちゃんだな

美「お兄ちゃんが一緒に探してくれたの」

といい、僕に向かって指を指してきた

おいおい、美羽ちゃん人に指を指しちゃいけないてお母さんに習わなかったのかい？

？「美羽！人に指指しちゃ駄目！！」

美「ごめんなさい」

とそんな、やりとりを見ているとお父さんポイ人が僕に近づいてきた

？「ありがとうな、君・・・だが、もし手を出したらコロス！！」

と小声で僕の耳元で言ってきた・・・・やばいよこの人！！娘好きだよ！！

それから、何故か写真を撮り別れた

～家～

父「ふー、明日から仕事か・・・がんばるか・・」

母「そうね、がんばりましょ」

僕の親はとある会社で働いている、まぁ、そんな事はどうでもいいや、さて、今日買ったもの見てこよ

～自分の部屋～

いやー、なんて、いい部屋なんだろうこの部屋

僕はベッドにダイブしそのまま眠りについてしまった。

無印～過去編1～（後書き）

どうも、最後まで読んでくれてありがとうございます。
どうしようもない駄文です

無印～過去編2～（前書き）

無印が続きます。
駄文ですがどうぞ

無印～過去編2～

僕が学校に入って二年が立った

そして、今は昼休み中

1「パス、パス」

そう・・今僕がやってるスポーツは「ドッチボール」

そして、僕は今コート内で、最後の一人

4「橘さん!!橘さん!!橘さんナズェミデルンディス!」

橘（ボールを避けながら外野の4を見ている

あれ?あいつ、あんなに発音悪かったけ?

5「ダディャーナザァーン!!（橘さぁーん!）ヘェヘェ!!ナズェミデルンディス!!（何故見てるんですか!!）」

奏「お前等!発音が可笑しいよ!!」

突っ込んでいる間に、ボールに当たってしまった・・・・クソ!!

あいつら許さない!!

とまぁ、いろいろ合った・・・・

～一ヵ月後～

先「あー、橘が引越しすることになった」

クラスメイト『まじかよーーー！！』

先「マジだ、ちなみに、先生　彼女募集中だ」

クラスメイト『まじか！！！』

先「今度、合コンやるから　来れたら、この店こいよ」

普通・・・・こんな話、転校する日に言うか？

もう、みんな合コンの話で夢中だぞ　俺可哀想・・・マジで可哀想・・・

～一週間後～

先　「はい、では、今日は転校生を紹介します」

男1「女の子ですか？」

女1「男の子ですか？」

先　「う～ん、謎です」

男2「謎てなんですか！！」

先　「その言葉の通りです」

女2「見ての楽しみて事ね」

？　「美羽どんな子だと？」

美羽「うーん、わかんない」

先　「橘君！！入ってもいいわよ」

橘　「こんにちは、今日転校してきた　橘　奏です。これから、よろしくお願いします」（ぺこり

男1「本当だ・・・男か女かわからない・・・」

橘　「男です」

女3「男なんだ・・・」

なに、あの3番目の子・・・・百合心があるの？まぁ、まだ2年生だから・・・・

美羽「あ！！お兄ちゃん！」

？　「美羽なに言ってるの？」

橘　「えっと、誰でしたっけ？」

美羽「忘れちゃったの？」

～次回に続く～

無印～過去編2～（後書き）

駄文ですどうぞ

設定（前書き）

今回は設定です

設定

名前：橘（たちばな）　奏（かなで）

性別：男の娘

好きな物：ヒーロー物、漫画、小説

嫌いな物：野菜、ゲテモノ、虫、静かなところ、豆腐

好きな人：自分をわかってくれる人、優しい人、気前が良い人

嫌いな人：暴力を振るってくる人、虐めてくる人

スキル：無窮の武練　黄金律　怪力　前世の記憶

無窮の武練：いついかなる状況においても体得した武の技術は劣化しない。

黄金律：人生においてどれほどお金が付いて回るかという宿命を指す

怪力：一定時間筋力のランクが一つ上がる。持続時間は「怪力のランク」による。

前世の記憶：前世で学んだ事、記憶など全てが引き継がれる「運のランク」によって、よりよくわかる

設定（後書き）

これで終わりです

無印～過去編3～（前書き）

駄文ですけど
どうぞ

無印～過去編３～

美羽「お兄ちゃん覚えてないの？」

奏　「ちょっと、待って今思い出す・・・」

えっと、親戚の井本さんの子供？いや確かあの人今、ブラジルに移住してたし・・・・佐久屋さん？いやあの人大阪だ

美羽「お兄ちゃん、美羽だよ」

美羽・・・・あ・・あーーコミケの時に一緒に親探して、父親に手出したら殺すて言われて速く忘れよて思って忘れたんだ

それにしても久しぶりに原作キャラにあったなー

奏　「久しぶり、それと、お兄ちゃんじゃないよ」

クラスの男子（美羽様にお兄ちゃんて呼ばれて・・・・羨ましいぞ・・・・）

先　「感動の再開はもういいかしら？」

奏　「ありがとうございました」

女５「先生席てどこにするんですか？」

男２「先生の隣ｗｗｗ」

先　「君は後で職員室ね」

男2「はーーー！！！！」

先　「ちょうど良い所に美羽さんの隣の席が空いてから、そこで」

男5「先生そこは、小林の席です～～」

先　「いいのよ、平日に旅行行くやつが悪いんだから・・・・じゃあ、そこね」

奏　「はい、わかりました」

はぁ～転校て疲れるな・・・

～席に着き～

美羽「これから、一年よろしくねお兄ちゃん」

奏　「お兄ちゃんは止めてくれ・・・・うん？」

なんか、前世でこんなことあったな・・・・・・

美羽「どうしたのお兄ちゃん」

奏　「なんでもないよ」

えっと・・・・・思い出した

～思い出し～

『おはようございます■■様』

『おはようございます■■様』

「虐めか！！それいい初めてから、周りの目線が痛くなってきたんだよ！！！！！」

『それは、悲しいです■■様』

「まじで、やめてくれよ！！」

～終了～

確か中三の時だったな・・・・・

？　「美羽・・・あの子、なんか、苦しそうな顔してるよ」

美羽「そんなに私の隣が嫌だったのかな・・」（涙目

クラスの男子（泣かせたら・・・・殺す！！

この時、クラスの男子が一致した奇跡の瞬間だった

奏　「先生・・・保健室にいってもいいですか？」

先　「いいけど、場所わかる？」

奏　「大丈夫です、運がいいほうですから」

EXだからだね

～廊下～

あれ？本当に保健室どこ？

マジで、わからない・・・・・・・

そうだ、よし、OKこれは、罠だ・・・・この学校に保健室が無いと思わせる・・・・罠だ！！！！

ま・・・・冗談はこれまでにして・・・・確か母さんが道わからなくなったら聞きなさいて言ってたから

あの人に聞いてみよ

奏　「すいません、保健室てどこですか？」

？　「え・・・・・」（後ろに引く

見られた瞬間にこれて酷い・・・・

～次回に続く～

無印～過去編3～（後書き）

すいません学校に行かないといけないので

これで

無印～過去編４～（前書き）

駄文ですけど、どうぞ

無印～過去編４～

ここは、謝るべきだな

奏　「あの・・・なんかすいません」

しかたない、自分で探すか・・・・はぁー、初対面の人に引かれるなんて悲しいな・・・・

？　「ま・・・前！！」

うん？なにか言ってる・・・・・・て、ぎゃーーーー！！！！！

そして、僕は会談から落ちた・・・そこから病院に運ばれ一時間くらい気を失ってたらしい

～病院～

医　「いや～、それにしてもすごいねー、まさか、頭から落ちて死なないなんて、君はなんだい？化物かい？」

奏　「化物ではないです」

医　「まぁ、いいや、頭の包帯は外さないでね」

奏　「はぁ・・・・わかりました・・」

～家～

父　「大丈夫か？痛くないか？」

奏　「痛くないよ・・」

母　「思えばそろそろ行く時間ね」

奏　「いくてどこに？」

父　「あぁ、父さん達会社転勤になっただろ、それでな、優しい夫婦がな、家に招いてくれるから、お言葉に甘えて行こうて話なんだ」

奏　「僕も行っていい？」

母　「大丈夫よ、奏と同じ歳の子供が要るらしいか、遊んでもらいなさいよ」

奏　「ありがとうね」

～優しい同僚の家の前～

父　「こんばんはー」

？　「よく、来たな中に入りなよ」

母　「ありがとうございます」

奏　「ありがとうございます」

？　「君頭大丈夫？」

奏　「大丈夫です」

～親切な人の家の中～

うはー、でかい、広い・・・・すごいなー、この広さ異常だよ

最近ぜんぜん、原作を思い出せなくなってきたけど・・・・まぁ、いいや

母　「あ・・・祐理さん、お邪魔してます」（ペコリ

祐理「よく、来たわね」

笑顔で迎えてくれた

母　「息子の奏です。」

祐理「本当に女の子にそっくりね、よろしくね奏ちゃん」

奏　「僕は男なので君だと思います、こちらこそよろしくお願いします」

祐理「信吾さんも挨拶してください」

信吾「わかった、僕の名前は信吾よろしくね、奏君」

奏　「こちらこそ、よろしくお願いします」

～5分後～

？　「パパお風呂でたよ」

僕がちょうど、「戦争論」を呼んでいると、信吾さん達の子供が来

たらしいです

？　「パパ、この人たち誰？」

父　「こんばんは、お譲ちゃん達、僕と妻は君のパパが働いてる会社の同僚だよ、こら奏！挨拶しなさい」

奏　「わかったよ・・・僕は橘　奏よろしくね」

？　「え・・・あなた？まさか、今日階段から落ちた子？」

奏　「え・・・僕の事知ってるの？」

？　「うん、今日私の目の前で階段から落ちた子でしょ・・・」

えーと・・・話しかけて引いた子だ・・・・

奏　（悲しい顔まさに、これ→（｜｀｜｜｜）

？　「・・・なんかごめんね」（謝罪

奏　「いえ・・・きにせずにどうぞ」

こうして、僕はマイナスのオーラを５０分間放ってた（大人達は酒を飲んでテンションがハイになっていた

祐理「今日はもう、泊まっていきなよ」

母　「そうさせてもらうは！！」

信吾「君も酒もうちょっと飲みなよ！」

父　「ええ・・・では・・・」（飲む

奏　「すいません、眠くなってきたので寝たいのですが、どこで寝たらいいですか？」

祐理「別にどこでもいいわよ、奏ちゃん」

奏　「わかりました、それと、君だと思います」

さて・・・・どこで寝ようかね～～

この時僕はもうマイナスオーラを放っていなかった

？　「さっき、言い忘れたけど、私の名前は空よろしくね」

奏　「ええ・・・よろしくお願いします」（ふらふら

空　「ふらついてるけど大丈夫？」

奏　「眠いです・・」

空　「どこで寝る？」

奏　「どこでもいいです・・・・・Ｚｚｚ」（あまりの眠さに倒れる

空　「倒れちゃった・・・ねぇ、美羽どうすればいいと思う？」

美羽「Ｚｚｚｚ」（寝てる

空　「どうすればいいのよ！！」

大人達（宴会中

～翌朝～

どうやら、僕はいつの間にか寝てしまったようだ・・・さて、おきて毎朝のジョギングをしなければ・・・

あれ？動けない・・・・なんでだ？まさか、金縛り？

あれ？暖かい・・・・なんだろう、呼吸音が聞こえる・・・・

そう思い、僕は横を向いた・・・そうすると、空さんが居た・・・・

奏　「！！！！！」

あ・・・なんか、今更だけど、思い出した・・・空さん・・・低血圧で人に知らない間に抱きついて暖を取るんだ・・

みんな、羨ましいかい？なら、変わってくれよ・・・僕今、空さんに腕挫十字固されて、間接決まってるんだよ

美羽「はーー（アクビ）あ・・・お姉ちゃんずるい！！」

だからって、その上に乗らないでくれ！！！！

と、まぁ、いろいろあった・・・・

〜次回原作入り〜

無印～過去編４～（後書き）

駄文ですがすいません

夏休み（前書き）

駄文です

夏休み

僕が五年になって夏休みが来た。

いつもなら、毎年どおりコミケに行くはずだったが、父さんと母さんが小鳥遊（美羽の母さんと父さん）さんと一緒に海外出張に行った。

ちなみに、僕は家で一人・・・・暇だ・・・美羽さんの家にでも行こ・・・・思えば、空さんにやられてからトラウマになっていこうとしなかったんだよなー。

そう思い僕は小鳥遊さんの家に行くことにした。

だが、この時僕は知らなかった・・・・

～小鳥遊～

奏　「こんにちは」（ドアを開ける

あれ？鍵が開くのになんで、誰もいないんだろう？けど、靴はある・・・・

そう思い、僕は自分の記憶を思い出し広間に移動した・・・

～広間～

あれ、泣いてる？なんでだろう

空さんは泣いてて、美羽さんも泣いてて、ひなちゃんが寝てる・・・・ちなみに、ひなちゃんは美羽さんの妹らしい。

奏　「あの・・・どうしたんですか？」

空　「グス・・・パパ達が・・・死んじゃった・・・」

奏　「え・・・どうして死んでしまったんですか？」

～説明中～

そんあ・・・飛行機が・・落ちたなんて・・・信じられない。

そんなこと、ドリフの劇でもないんだから。

そうだよ、これは嘘だよ

奏　「嘘・・・ですよね？」

美羽「嘘じゃないわよ！！」

はうあ！！怒られた・・・という事は・・・これは、真実なのか・・・

奏　「まさか・・・本当ですか？」

美羽「だから。そうって言ってるじゃないない！！」

奏　「すいません・・・」

美羽「こっちこそ・・・ごめん・・・・」

まさか・・・本当だったとは・・・

だって、飛行機が落ちるなんて約三百分の一の確立なんだろ・・・

あれ？今思った・・・・僕の家に親戚いなかったんだ・・・・

どうしよう・・・・

まぁ、まずは自分の家に戻って・・・・

奏　「ごめんね・・・・帰るよ・・・・」

～家～

まずは・・・・母さんの部屋だ・・・

～母さんの部屋～

えっと、まぁ適当に探すか・・・

～３０分後～

同人誌とかいろいろ出てきた・・・後、アルバムがでてきた　それと、通帳と判子・・・

通帳の中の予算額は・・・・ハ！！　１，２，３，４，５，６，７，８，９，１０，１１，１２桁・・・まさか、これ黄金律のおかげが？そうだよな・・・・すげーよ

次は父さんの所だ

～父さんの部屋～

さて、どこから探すか

～３０分後～

なんか・・・・あれがでてきた・・・・（作者の自主規制

それと・・・こっちも通帳と手紙（？）と写真となんだ？これ暗号？

写真には・・・・大学のときの友達・・・すごいな・・・太い人がいる・・・えっと・・佐古俊太郎？誰だこの人？

それから、通帳を見てみた、こっちも同じ、桁だった・・・・金ありすぎ・・・流石黄金律：ＥＸ

手紙は、え・・・「困ったら佐古君を頼ってくれ・・後、もし死んだら葬式開かないでねよろしく、じゃ、ノシ」

佐古さんはわかったよ、葬式も開かなくていいんだね、ノシてチャットかよ！！て突っ込んだら涙が出てきた・・・

そうして、僕はその日寝てしまった

～終わり～

夏休み（後書き）

駄文でした

俺を見捨てないでくれ！！（前書き）

駄文です。
それと、コメントありがとうございます。

俺を見捨てないでくれ！！

～瀬川　祐太ＳＩＤＥ～
こんにちはもしくは、こんばんは瀬川祐太です。

「こいつ誰？」て思った人は・・・いますね・・・

作者「瀬川さんは、祐理さんの弟だよ・・・・はい、解説終了！！」

解説すくない！！俺て一応主人公だよね！！と、心中の叫びはやめて・・・と・・・・

瀬川「タイミングなくしちゃったな・・・」

そんな言葉が思わず口をついて出た

ショックが大きすぎたってのもあるし、現地調査だの事故調査がどうだのって起こったことが大きすぎてまるで、現実感がわかなかった。

今頃になってやっと実感がわいてきたっていうのに、周りはすっかり涙も枯れ果てている。これじゃ、泣きたくても泣けないや。

伯母「祐太さん」

瀬川「あ・・・伯母（おば）さん・・」

伯母「私はそろそろ帰りますけど、祐太さんはどうするの？」

瀬川「俺ももうちょっとしたら、帰ります」

そう言って立ち上がった時だった俺の耳に、ひとつの言葉が飛び込んできた。

A　「空ちゃんは誰と暮らすのがいいかな」

B　「うちは年頃の男の子がいるから・・・ちょっと難しいわ。ひなちゃん一人なら、考えなくも無いけど」

作者「話長くなるから、飛ばすぜ・・・答えは聞いてない」

瀬川「ちょ！待て」

伯母「祐太さんなに言ってる？」

瀬川「いや・・・なにも・・・」

～１０分後～

まぁ、いろいろあって、三人は俺が引き取ることになった

作者め飛ばしやがって

～奏ＳＩＤＥ～

まぁ、一応僕は、美羽さんのお母さんとお父さんのお葬式行ったよ・・・・

けど、あんまり覚えてないんだ・・・・気晴らしに本屋にでもよろ

～本屋～

・・・・・・はぁ～

最悪だ・・・・なにも、やる気が起きない・・・・

なんで、僕は転生したんだろう・・・・ふと、そんな事を考えてしまった

そして、僕は思いついてしまった・・・・死んでしまえ・・・どんだけ楽になれるだろうか・・・

そうだ・・・死んでしまおう・・・どうせ、僕はこの世界にいても意味が無いんだ、なら、死んでしまえばどれだけ楽か・・・

そう思い、僕は自殺辞典という本を１２００円（税込み有）で買った。

～それから、一週間後～

僕はまだ死んでなかった・・・・死のうと頭をタンスの角にぶつけるが生きてた・・・・

首を吊ろうとしたら、そのヒモが切れて顔面から床にダイブ・・・・

そして、あれこれやり一週間がたった日だった

ピンポ～ン

なんか、久しぶりに聞いた音がした

～次回に続く～

俺を見捨てないでくれ！！（後書き）

駄文ですがすいません、

ちなみに、奏君は今死にたがり状態です

どうせ・・・・俺なんて・・・・（前書き）

どうぞ、駄文ですけど、お願いします。

どうせ・・・・俺なんて・・・

奏　「はい」（ドアを開ける

美羽「あの・・・今大丈夫？」（おどおど

なんで、おどおどしてるんだろう？・・・あぁ、そうか、僕の手は傷だらけで、首にも傷の跡・・・そりゃあ、怖いよね・・・

奏　「大丈夫だよ・・」（作り笑顔

美羽「ありがとう・・」

～ロビー～

奏　「えっと、お茶でいいかな？」

美羽「うん、ありがとう」

～5分後～

奏　「どうぞ」

美羽「ありがとう・・・」（奏の手首を見て

美羽「ねぇ、手首の傷てどうやってできたの？」

なんだ、そんなことか・・・・

奏　「自分でやったんだよ・・・」（作り笑顔で

美羽「な・・・なんで、そんなことを？」

どうやら、美羽ちゃんは怖がってるらしい・・・・だけど、質問されてるから、答えないといけないんだよね

奏　「それはね、もう、辛いんだよ・・」

美羽「え・・・」

奏　「僕ね、親戚がいないんだよ・・・・それに、心配してくれる人もいないし、愛してくれる人も、もういない、それに僕を見ればみんな「可愛そう」、「痛そう」、「お大事に」とか・・・僕の事を悲しい風にしか、見てくれないんだよ。それでさ、いろいろ考えたんだよ、どうせ、僕なんて生きていても仕方が無い・・・生きていた所で誰も心配してくれない、どうせ、僕はずっと悲しい人ていうレッテルを貼られながら生きてくのさ・・・・それなら、死んだほうが楽じゃない？だって、そうでしょ、死ねば母さんと父さんに会えるんだよ・・・そんなに、幸せなことて無いじゃん・・・・・違うかい？」

美羽「・・・・・」

奏　「ごめんね、こんな、つまらない男の子と喋っていってもつまらないでしょ・・・」

美羽「そんなことないよ・・・」

奏　「思えば、美羽さん達はあの後誰に引き取られたの？」

美羽「お兄ちゃんが引き取ってくれた・・」

奏　「そう・・よかったじゃない・・・」（笑顔で

美羽「ねぇ、奏君・・・奏君の笑顔てぜんぜん笑ってるように見えないよ・・・ねぇ、奏君ちゃんと、笑ってよ・・・お願い」

奏　「ごめんね、美羽ちゃん・・・・もう、ちゃんと笑えないんだよ」

美羽「嘘よ・・・」

奏　「嘘じゃないよ、僕はもう作り笑いしかできない・・・・そうだ、美羽ちゃん・・・僕ね・・・君が好きなんだよ・・今まで、言えなかったけどさ・・・けど、こんな僕に告白されても嬉しくないよね・・・」

美羽「え・・・」

奏　「ごめんね、こんなこと言って、だけどさ、美羽ちゃんは僕の事好きじゃないでしょ・・・」

美羽「好きよ・・・」

奏　「え・・・冗談でしょ・・・」

美羽「冗談じゃないわよ！本当よ！！」

奏　「そう・・・ありがとう・・帰りなよ、そろそろ帰らないと空

さんとか心配するよ」（イスから立ち上がり

美羽「うん・・・また、今度ね」

いい子だね・・・だけど、僕は今夜自殺するよ・・・

～夜～

やっぱり、首吊りだね・・・・そういい僕は、山登りに使うロープを購入した

～裕太ＳＩＤＥ～

あれ？あの子、お葬式の時にいった子だ・・・だけど、なんでロープを持って山に向かってるんだ？

そう思い、俺はその子の跡を着けていった

～１０分後～

あの子ロープを木の上に縛り付けて首を吊ろうとしてる・・・・止めないと

瀬川「君！！なにやってるの！」

奏　「あ・・・こんばんは、僕はただ自殺をしようとしているだけです・・・」

瀬川「なんで、自殺なんか・・・「疲れたからです」え・・・」

奏　「僕はもう生きたくないんです・・・・・」

瀬川「はぁーー、まぁ、いいや一旦こっちに来てくれ」

奏　「？」（近づく

瀬川「いいか、よく聞けよ」

奏　「はい」

瀬川「ふーーー、俺の好きな言葉でな、こんな言葉があるんだ諦めたら、そこで試合終了・・今まさに、お前はその状態だ」

奏　「なるほど・・・僕が・・・うん、その通りだ」

瀬川「というか、今のセリフ関係ないけどさ、お前の体とか見る限り・・・・お前死ねないんじゃないのか？」

奏　「は・・・・・？」

瀬川「だって、深く傷跡が有るのに、生きてるし、首を何回も締め付けた跡があるけど、死んでないし・・・」

奏　「死ねないのか・・・・仕方ない・・・納得できないけど・・生きてみるか・・」

そうして、僕は自分の家に帰り・・・寝た・・・そうだ、明日、佐古さんの所を訪ねてみよ・・・

どうせ・・・・俺なんて・・・・（後書き）

かなりの駄文ですけど。
すいません。
ＤＥＡＤ　ＥＮＤ回避
納得できない方はすいませんでした！！

そうだ・・・・俺には明日がある（前書き）

駄文です。

そうだ・・・・俺には明日がある

～?～

あれ?ここはどこだろう・・・・

神　「また、会ったな・・・少年」

奏　「あ・・・神様、お久」

神　「お久」

奏　「なんで、僕はここにいるんですか?」

神　「いや、お前に一つ言いたい事があって」

何をだろう?僕にまた、何かくれるのかなー?

神　「よし・・・一度しか言わないぞ・・・・お前死にすぎなんだよ!!!!」

奏　「え・・・・・?」

神　「だから、お前死にすぎなんだよ!!!どんだけ、俺の仕事増やすんだよ!!」

奏　「え・・・・俺死んでたんですか?」

神　「は・・・死んでないと、思ってたのかい?お前バカだろ・・・

・出血多量で死なない奴なんていないぜ・・・・それでさ、お前が死んでこっちくる、俺が現世に返す・・・・お前またくる・・・また、返すの繰り返し・・・・疲れるんだよ！！」

奏　「すいません・・・・」

神　「わかればよろしい」

奏　「あの・・・母さんと父さんて今どこにいるんですか？」

神　「あぁーーーお前の父さんなら「ＩＳ」の世界に転生して・・・・母さんは「めだかボックス」の世界に転生させたよ」

奏　「え・・・・転生させた？」

神　「うぬ・・・だってさ、お前さんの親だからさ・・・転生させた方がいいかな？て・・・あ、それと伝言があるぞ」

奏　「？」

神　「確か「どうせ、生きて８０年の人生だそれが、速まっただけだ、気にするなよ、大変になるのはわかるけど、それが人生というものだ、今はキツクてもいつか楽になれる」だそうだ」

なんて、いい加減な親なんだ、けど・・・・いい親だったな

神　「では、用事は以上・・・じゃあな」

奏　「さようなら」

神　「おっと、忘れてた・・・これは、前世お主の部屋にあった物じゃ、持ち帰って遊ぶがいい」

あ・・・やった、オーズドライバーとコアメダルとかいろいろ全部ある

神　「だが、あの世界の本はなしじゃぞ、ではな」

そういい、僕は現世に戻った。

そうだ・・・・俺には明日がある（後書き）

駄文でしたけど。

美羽様のキャラソン三枚買いましたーーーーーーー！！

後はねんどろいど、だけです

これからも、応援よろしくお願いします。

みんなとワイワイ、ガヤガヤ、ザワザワ（前書き）

駄文ですけど
気づかない、うちにお気に入り登録数が２３件も！！
皆様ありがとうございます！！！
これかも、駄文ですけど、がんばらせていただきます！！

みんなとワイワイ、ガヤガヤ、ザワザワ

～朝～

ふーー、さて、今日は佐古さんの家に行く予定のはず・・・・

～昼間～

奏　「えっと、ここが多摩文学院大学でいいんだよね？」

そう言い彼は、大学の中に入るときだった

警備員「君！！勝手に入っちゃ駄目だよ！！」

奏　「え・・・・ちょ・・・・・」

そう、奏は忘れていた・・・・警備員がいることを

～大学内～

あの後、いろいろ言いくるめなんとか、学校の中に入れた・・・・・

というか、なんで、警備員が佐古さん知っているんだ？

そんなにすごい人なのか？それとも、ただの先生なのかどっちだろう？

～路上観察研究会ドア前～

え？路上観察？なに、ホームレスでも観察する所なの？

もしくは、路上の作りを観察するかい？あー、考えてるとだんだんわからなくなってくる・・・・まぁ、中に入ろう・・・

～中～

中は誰もいなかった・・・・・

なんで？まさか、部屋を間違えた？それとも・・・・はめられた！！！

くそ、警備員！！はかったな！！まさか、僕はこれから拉致られるのか！！

あー、どうしよう！僕はまだ、死にたくないし！！てか、死んだけどｗｗｗ

それより・・・・あの、ダンボールの中身てなんだろう？

そう思い、僕はダンボールの中身を空けた・・・・

入っていたのは、ネコミミメイド系のエロ本などなど

奏　「・・・・・なに、これ？怖い？」

その時、ドアが開いた

？　「ふーー、疲れた・・・・うん？」

と、太った眼鏡を欠けてる人はこっちを見てきた

は・・・・エロ本片手に立ってる僕て・・・・

？　「君はまさか・・・・■■■君の息子かい？」

奏　「はい・・・そうですけど」

～いろいろ説明中～

佐古　「なるほどー・・・君の父上が困ったら来いて言ってたんだな」

奏　「ええ・・そうなんですよ」

佐古　「だが、今日僕は瀬川君の家に行かないといけないし・・・そうだ！君の家は開いてるかい？」

奏　「ええ・・・・空いてますけど？どうしてですか？」

佐古　「今から・・・・・パーティーだ」

そういい、佐古さんは電話をし始めた・・・・・僕の家知ってるんですね。

～ＭＹ　家～

いや～、まさか、僕の家でパーティーをするなんて、幼稚園以来だなーーー

あ・・・ちなみに、今佐古さんがみんなを迎えに行ってるらしい。

さて、暇だ・・・・そうだ、前世の物があるんだ、久しぶりにそれで遊ぼ・・・

さて、コアメダルが全部ある・・・・よし・・・・遊ぶか

奏　「あ・・・・ちゃんと、付けれる・・・」

僕はオーズドライバーを腰に巻き、三枚の穴の中にコアメダルを入れて遊んでた

奏　「やっぱり、ガタキリバが好きだね」

ベルト音「クワガタ！カマキリ！バッタ！ガータガタガタキリッバ！ガタキリバ！」

おー、ちゃんとなる

～佐古ＳＩＤＥ～

なんか、玄関を開けてなにか聞こえると思ったら、なんか、変なベルトで遊んでるじゃないか

彼にも、あんな風に遊ぶときがあるんだな・・・

～奏　ＳＩＤＥ～

次は、シャウタだ・・・・

ベルト音「シャチ！ウナギ！タコ！　シャシャシャウター！シャシ

ャシャウター！」

おー、懐かしいな～～

ひな　「おいたん！変な音が聞こえる！」

瀬川　「本当だな、ひな」

？　「こりゃないわ」

空　「うん、これはない」

奏　「な・・・なんで、ここにいるんですか？というか・・・ナズェミデルンディス！！！（何故見てるんです！！）」

空　「それよりも、久しぶりね」

奏　「僕の質問は無視なんですか！」

瀬川　「あ・・・自殺しようとしてた人」

奏　「また、ですか！！」

？　「あ・・・謎の人」

奏　「また、ですか！というか、あなたは誰ですか！！」

ひな　「しらないひとー」

奏　「僕も知りませんよ！！」

佐古　「あ・・・・連続強盗犯！！」

奏　「佐古さんあなたもですか！！てか、してませんよ！！！」

美羽　「あ・・・・奏君だ」

奏　「あ・・・美羽さんだー」

？　「言動がおかしい人・・」

奏　「もう、いい加減にしてください！！」

この時僕は最高に楽しかった・・・・

～次回に続く～

みんなとワイワイ、ガヤガヤ、ザワザワ（後書き）

駄文ですけど、ありがとうございました！！

作者と神様（前書き）

今回は・・なにがしたいんだろう・・・

ちなみに、コメントが作者の原動力です。

いつもどおりの駄文です。

作者と神様

作者「それにしても美羽ちゃんのキャラソン三つ買ったぜ」

神様「ほー、珍しい、いつもCDを買わない作者が三つも買うなんて、ちなみに、空ちゃんは？」

作者「僕は美羽ちゃん一筋ですよ？」

神様「ということは、買ってないんだな」

作者「YES！！」

神様「で、美羽ちゃんのCD聞いたのか？」

作者「あぁ、聞いたぜ最高だった」

神様「この美羽コンめが・・・」

作者「それにしてもさー、話変わるけど、DMC（デトロイト・メタル・シティー）て面白いよね」

神様「俺は嫌いだ」

作者「貴様！それは、クラウザーさんに対する冒涜か！！！SATUGAIするぞ！！」

神様「俺はかみだぞ、貴様が勝てると思うのか？」

作者「ここは、俺の世界だ！！」

作者「聞こえる・・・ＤＭＣファンのみんなの声が！！俺の体をみんなに貸すぞ！！」

そういい、作者はギターで神様を鈍殺した

ＤＭＣ信者「でたーーーー！！！あれは、クラウザーさんの技を真似した技！「非常なるギター（真似）」だーーーー！！！！

こうして。第一次神様合戦が終わった

作者と神様（後書き）

すいません、遊んでしまいました

駄文でしたがどうぞ

は・・・・・殺気！！（前書き）

駄文ですけどお願いします。
いつのまにか、２６人もの人がお気に入りリストにいれてくださいました！！
こんなに、嬉しいことはありません！！

は・・・・・殺気！！

～話し合い中～

奏　「なるほど、美羽さん達の叔父が瀬川さんだったんですね・・・・世界て狭いんだね」

瀬川　「そうだな・・・・せまいな・・」

ちなみに、今織田さんと仁村さんと言う人が料理を作っていて、佐古さんと空さん達はテレビゲームをしています。

ちなみに、空さんは今怒っています・・・・なんで、怒ってるのかは瀬川さんから聞きました。

どうやら、空さんがおばさんと言われたらしいです。

ちなみに、美羽さんは美羽様と呼ばれたらしいです。

そして、今やってるゲームは前世僕の部屋に有ったゲームをいまやってます。

あー、久々に見るな～このゲーム・・・・・案外面白いんだよなー

そう思ってる間に、鍋ができて机の上に置かれた・・・・・・あ、思い出した、飲み物がないんだ・・・

奏　「飲み物買ってきますけど、みなさんなにがいいですか？」

作者　「コウモリの生き血で・・」

なんか、今変な声が聞こえた・・・・まぁ、いいや

僕はみんなからの買ってきてもらいたい物を聞き、買いにいった・・・・ちなみに、美羽ちゃんが一緒に行きたいといったから、一緒にいくことになった

～マート　福沢～

いや～、安いな～こんなに安いなんて嘘みたいだよ

美羽　「ちゃんと、立ち直ったんだね」

奏　「うん、立ち直れたよ・・・・」

美羽　「おめでとう」（笑顔

奏　「笑顔は反則だよ・・・」

美羽　「なにか、言った？」

奏　「なにもない」

こんなやり取りをしながら僕達はマート福沢を後にした

～次回に続く～

次回予告

テメェー・・・兄貴を何見てんだ!!!!ゴラァーーーーーーーーー!!!!!!!!

は・・・・・殺気！！（後書き）

駄文です。
すいません

兄貴は・・・・うん・・・・・（前書き）

駄文ですが、すいません

いつの間にか、５６ｐｔ！！

ありがとうございます！！！！

兄貴は・・・・うん・・・・

さて、頼まれた飲み物と美羽さんが食べたいと言ったアイスを買い帰る途中だった。

チン１　「おい！テメェーなに見てんだよ！！」

何か金髪でピアスしてる人がこっち見てくるよ・・・・

奏　「いえ・・・・ピアスしてて痛くないのかな～～～て思って」

チン１　「痛くねーーーーんだよ！！！！！」

奏　「えーーー、本当ですかーーー強がってるだけじゃないんですか？」

美羽　「か・・・・奏君・・」

チン１　「テメェーーーー！いい加減にしろよ！！」

そう言いチンピラが殴りかかってきた・・・・まぁ、喰らえばいいか

奏　（喰らい吹っ飛ぶ

やっぱり、痛いや・・・・・まぁ、いいやどうせ

奏　（立ち上がり）「で、ピアスて痛くないんですか？」

チン１　「こいつ・・・君ワリーーーー・・」

あー、逃げてくよバイバイ！！

美羽　「大丈夫？」

奏　「大丈夫だ、問題ない」

美羽　「本当に」

～１０分後～

かれこれ、１０分たった美羽さんは先に帰ってもらい・・・・僕は今チンピラに囲まれています

何故囲まれてるか？簡単だよ、あのチンピラ仲間呼んできたんだよ

チン１　「兄貴こいつです！！兄貴を馬鹿にしたやつは！！」

馬鹿にした？僕が？した覚えがないんだけど・・・・

チン２　「おい！！殺ちまおうぜ！！！」

仕方ない・・・これは、最後の手段だけど使うしかない・・・・あれ？あのデブの人が兄貴？

チン１　「テメェー！！何兄貴見てんだ！！ＳＡＴＵＧＡＩ（殺害）するぞ！！！」

作者　「ＳＡＴＡＵＧＡＩするぞ！！」

なんか、変な人が居たスルーで

兄貴　「おいおい、子供相手に本気だすなんて、大人気ないぞ」
（サングラスを取り

チン１　「すいません・・・兄貴」

兄貴　「坊や、本当に俺の悪口を言ったのかい？」

奏　「いえ、言ってません！！」

兄貴　「そうか、じゃあ帰るぞ、お前等・・・・ちなみに、君て携帯持ってる？」

奏　「ええ・・・・持ってますけど」

兄貴　「交換しようか・・」

～それから、５分後～
僕は車に轢かれてた

～次回予告～
あ・・・・・豆腐が空から・・・・・・・ぎゃーーーーーーー！！！！

兄貴は・・・・うん・・・・・（後書き）

駄文です、すいません

さぁーーーーて、やったてことはやってもいいてことだよな？（前書き）

駄文ですけどどうぞ

さぁーーーて、やったてことはやってもいいてことだよな？

～家に戻り～

奏　「ただいま、戻りました～～」

あの後、いろいろ会ったが、まぁ、そこは気にしないでください

瀬川　「あれ？美羽ちゃんと一緒じゃないの？」

あれ？可笑しい・・・先に帰っていてと言ったはずなのにな～～

奏　「あ・・・・すいません、買い忘れ物が有ったので買ってきます」

～外～

さて、さっそく使う時が来た・・・・・兄貴

兄貴　「おう、サモだがどうした？」

奏　「あーー、すいませんサモさん僕の知り合いの女の子が行方不明になったので、捜してもらえませんか？」

サモ　「いいぜ、さて、特徴とかはないのか？」

奏　「黄色い髪の毛で美人で女神で黒い服に兎のマークが有って英語？でＣＲＡＺＹ　ＲＡＢＢＩＴ　ＣＯＭＭＩＮＧ　ＳＯＯＮ！て書いてあります」

サモ　「えっと、黄色い髪の毛で、黒い服に兎のマークな・・・・」

奏　「あれ？二個無視しましたよね？」

サム　「お・・・・いたぞ、流石サモネットワークだ　これは、裏路地だな・・・・」

奏　「感謝しますよ・・・サモさん」

～裏路地～

不良1「それにしても今日はいい日だな！！！」

不良2「あぁ、こんなロリッ娘を捕まえられるなんて最高だな！！」

不良3「おい！！誰か着たぞ！！」

不良4「なんか・・・・女か男かわかんない奴が来た！！」

不良1「意味わかんねーよ！！」

不良2「まさか、男の娘か？」

不良3「わ・・・・わかんねーけど、なんか、「越後ャーーーーー！！！！！」て言いながら走ってきてる」

不良1「なんだそれ？」

奏　「ちちゃな頃からロリコンで、十五でヘンタイと呼ばれたよ・

・・・けど、僕はロリコンじゃないけどね」

不良２「なんだ・・・・こいつ・・・」

奏　「僕はただ美羽ちゃんを助けに着ただけだよ」

不良１「お・・・おい、絞めちまおうゼ！！！」（鉄パイプ持って

作者　（天界からギターを落とす

不良３「うわ！なんかギター降ってきた！！」

奏　「ちょうどいいや」（ギターを持ち

作者　（天界からコンクリート並みの硬さを誇る豆腐を落とす

不良４「あ・・・・・豆腐が空から・・・・・・ぎゃーーーーーー！！！！！」

なんだ・・・あの、ＤＥＳＵＴＯＵＨＵ（デス・豆腐）は・・・・・

奏　「まぁ、いいや・・・・食らえ！！」（ギターを一の顔面に振り落とし

不良３「出たぁ！謎の男の娘の必殺「竹割り」だ～～！！！！」

なんか、謎の技を言っているや・・・・・

不良２「これは無いは」

不良１「てか、元の奴でも駄目だろｗｗｗ」
不良３「それはＤＭＣに対する冒？か！」

そういい、不良達は仲間割れをし始めた

奏　「さて、美羽さん帰りましょうか」（笑顔で

美羽　「え・・・・うん」

～一応歩いている～

奏　「ごめんね、一人にさして」

美羽　「え・・・うん、気にしないで」

奏　「これじゃ、駄目ですよね・・・」

～次回に続く～

～次回予告～

いや、俺はそんな趣味ないっす　誰か！助けてくれ！！　俺、
美羽さんのことが好きです！！

さぁーーーーて、やったてことはやってもいいてことだよな？（後書き）

駄文ですけど。
読んでくれたらうれしいです

限界突破！！・・・・・飲みすぎた・・・・・（おろおろ（前書き）

駄文ですけどお願いします！！

限界突破！！・・・・・飲みすぎた・・・・・（おろおろ

～自分の家～

やっと、鍋が食べれる・・・・

僕は織田さんという人に具をよそってくれたお皿を貰った

奏　「それにしても、多数で食べるほうが美味しいですね」

仁村　「思えば、奏君の家族はどうしたの？」

佐古　「仁村君！それは！」

奏　「いいんですよ、佐古さん、小村さんだって業とじゃないんですし」

仁村　「ありがとう、後小村じゃなくて仁村だよ」

奏　「すいません、小村さん業とじゃないんですよ、許してくださいよ」

仁村　「小村じゃなくて、仁村だ」

奏　「すいません、小谷さん、間違えました」

仁村　「だから、仁村だって！！というか、小谷て誰！！」

奏　「その内でるんじゃなんですか？小村さん」

仁村　「でるてなんだよ、だから、仁村だ」

このやり取りが３０分続いた～

そして、佐古さんがお酒を飲んで狂った・・・・・

佐古　「瀬川君だから、最近の女の子は１２歳までだよ」

瀬川　「誰か！助けてくれ！！」

どうやら、瀬川さんは助けを読んでるようだ

まぁ、僕はそんなこと興味ないけど・・・・・うん？今飲んだ飲み物苦い・・・・・てか、懐かしい味

美羽　「奏君！！それお酒！！」

あれ？なにか言ってる、それより僕は誰だ？まさか・・・・・神か・・・

瀬川　「いや、俺はそんな趣味ないっす」

佐古　「とか、言わずにほら、これ」（ちょっと危険な本を見せて

奏　「我は神・・・・・」

美羽　「奏君が狂った！！」

空　「おばちゃんじゃないもん・・・・おばちゃんじゃないもん・

・・」

仁村　「仁村スペシャル・・・・」

なんだ・・・・この神が現れても、平伏せないのか・・・・・・・

奏　「な・・・・なんて、美しいんだ・・・・あなたは我が神だ・・・」

美羽　「え・・・急になに」

奏　「あなた見たいな人がいてよかっ・・・・・・・（バタン」

仁村　「仁村ホッケー・・・・」

もう・・・・・無理・・・・

こうして、鍋祭りが終了した

～翌朝～

僕はまだ寝ている

これは、寝言

奏　「あ・・・・醤油は飲み物じゃないて・・・・・グァーーー！！」

奏　「ショウユー将軍を倒せない・・・・だと・・・」

奏　「ジーク！醤油！！ジーク！醤油！」

奏　「俺、美羽さんのことが好きです！！」

ちなみに、この寝言は佐古さん仁村さんに聞かれていました

～次回予告～

まて！！カレーにショウガはいれないものだ！！　え・・・・これが・・・カレー？　ハンバーグを食べて泣いたのは初めてだ・・・

限界突破！！・・・・・飲みすぎた・・・・（おろおろ（後書き）

駄文ですけど読んでくれてありがとうございます！！

カレーとハンバーグ（前書き）

駄文です、すいません
今日テストがありました・・・・・テストなんざクソ食らえ！！！

カレーとハンバーグ

佐古　「なるほど、つまり君は東アジアがショウユー将軍に侵略されてる夢を見てその政策がとてもよかったから、あんな事を言っていたんだね」

奏　「はい、ショウユー将軍のあの一日一本ショウユ政策に感動しました」

仁村　「思えば、なんで僕達ここで寝ているんだ？」

佐古　「仁村、それはね・・・」

～状況説明中～

仁村　「酒飲んで酔っちゃたのか・・・・」

佐古　「それよりも、速く大学に行かねば・・・・・そうだ、奏君一人でこの家にいるのは悲しいのかな？」

奏　「はい、友人の心臓が飛び散る並に悲しいです」

佐古　「では、瀬川君の家にでも行きたまえ」

仁村　「え・・・佐古先輩それて瀬川ちゃんに許可て取ったんですか？」

佐古　「取ってない☆まぁ、もし駄目だったら前みたいにロ研に来て」

～昼間～

暑い・・・なんで、暑いかって？町を歩いてるから・・・・

ちなみに、公園でなにかライブをやってるので見てたら・・・・・うん・・・・・

～公園での出来事～

一般人「ＧＯ！！ＴＯ！！ＤＭＣ！！ＧＯ！！ＴＯ！！ＤＭＣ」

なんなんだろう、あの・・・・・すごいメークの人たちは・・・・

作者　「ＧＯ！！ＴＯ！！ＤＭＣ！！」

どうやら、僕にはまだ速い様だ・・・・・・・探すか・・・・

～現状況～

えっと、確かここのはず・・・・・うん、そのはずだ・・

よし、元気に入るか　静かに入るか・・・・・普通に行こっと

奏　「こんにちはー」

あれ？反応が無い

奏　「こんにちはー」

まぁ、入ろう・・・・・

空　「カレーてショウガ入れるわよね？」

奏　「まて！！カレーにショウガはいれないものだ！！」

空　「え・・・・」

美羽　「あれ？奏君なんでいるの？」

奏　「実は、かくかくしかじかなんですよ」

空　「それ使ってる人、初めて見た」

美羽　「そんな事があったの！」

空　「伝わった！！」

奏　「冗談は、ここまでにして」

～説明中～

奏　「というわけだったんですよ」

空　「・・・・・一つ聞きたいけど、ショウユー将軍て誰？」

奏　「超大国ショウユーですけど、ちなみに・・・」

～説明中～

空　「なに、その国・・・・悲しいじゃない」（涙

美羽　「うん、かわいそう・・・・」（涙

奏　「そうだよね」（涙

～１０分後～

奏　「え・・・ご飯食べていってもいいんですか？」

空　「うん、ちょっと作りすぎちゃって」

～食事中～

奏　「え・・・・これが・・・カレー？」

空　「う・・・うるさい」

カレーとハンバーグ・・・・・なのかな？これ？カレーはなんか、変なにおいを放ってるしハンバーグは生だし

うん、まずい・・・・

美羽　（小声で）「まずいでしょ・・・・」

奏　（小声で）「えぇ、まずいです・・・・・ハンバーグを食べて泣いたのは初めてだ・・・」

奏　「もう・・・・・無理・・・・」（倒れる

こうして、僕は意識をなくした

～次回予告～

サモさん・・・

カレーとハンバーグ（後書き）

駄文ですすいません

サモさんと僕と馬鹿話（前書き）

駄文です

サモさんと僕と馬鹿話

はぁー、あのカレーの味は謎だ・・・・・なにをやればあんな風になるんだろう・・・

ちなみに、今僕は町を歩いています何故歩いているか？

それはね、家に帰ろうとしてるから

瀬川さんに今日は泊まって来なよといわれたけど、美羽さんと同じ家で寝るっとクラスの男子に殺されそうだから止めとく

そして、今僕は街をふらふら歩いているのであった　ナレーター：作者

？　「あれ？奏じゃん」

奏　「あ・・・・サモさん」

この人はサムさん、前美羽さん救出のとき助けてくれた人　解説：作者

サモ　「どうしたん？こんな場所を歩いているなんて？」

奏　「ちょっと、友達の家にいたんですよ」

サモ　「そうか、若いうちはたくさん遊んどけよ・・・」

奏　「サモさん・・・」

サモ　「うん？どうした？」

奏　「サモさん、口に焼きそばの青海苔が・・・」

サモ　「残念だな・・・・・これは、タコ焼きだ・・・」

～現代～

奏　「は・・・・・・・！！！！」

美羽　「あ・・・・起きた」

どうやら夢だったようだ

思えば、なんでサモさんだったんだ・・・？

～次回予告～

えーーー、あなたは誰ですか？

サモさんと僕と馬鹿話（後書き）

駄文でした

美味しんぼは役立つ漫画　そして、家族入り（前書き）

駄文です

美味しんぼは役立つ漫画　そして、家族入り

～数日後～

僕は今ロ研の部屋の中にいた・・・・なんで、いるか？・・・・・簡単だ佐古さんの友達（ラグビー部）に拉致られたから。

～今朝～

ピンポーン

奏　「はい、橘です・・・」

ラグ部「あ・・・・佐古さんが連れて来いて言ってたんで」

奏　「えーーー、あなたは誰ですか？」

といい、僕はラグビー部に連行されていった。

奏　「グァーーーーー！！！！！筋肉に押しつぶされる！！！そして、これは筋肉パレード！！は・・・・これは、最高に暑苦しい！！てか、汗臭い！！！！！これは苛めかい？はい、苛めです！！」

ラグ部「おい、五月蝿くないか？本当に五年生か？」

ラグ部「らしいぞ・・・」

～戻る～

ということでした、どうです？筋肉パレードは？

僕はいやです、まだ夏ですし・・・・・・筋肉なんて、飾りです・・・

佐古　「・・・・といわけで、君には保育園に行ってもらう」

奏　「筋肉ダルマがいけばいいじゃないですか」

佐古　「それを、考えたんだが・・・・・捕まるだろ？」

奏　「えぇ・・・・俺なら捕まえます」

佐古　「ということで・・・・行ってくれるかい？」

奏　「いいですけど・・・・服が・・・パジャマです」

佐古　「大丈夫だ・・・・服ならある・・・」

仁村　「会長・・・材料が・・・あと限界です」

佐古　「なに・・・・材料は取ってこればいいけど、料理は僕はできないし」

奏　「佐古さん、美味しんぼ３４巻を読んだこの俺が作ります」

佐古　「あんまり、期待できないが・・・・頼んだよ！！」

～料理中～

奏　「できましたよ・・・・・」

佐古　「うん！！それでいいや速く行ってきて！！」

奏　「え・・・・あ、はい」

～保育園前～

いやー、なんとかなる物だね・・・・・まさか、サモさんに遇うとは思わなかった

服装？普通の服だよ・・・・パジャマじゃないけどね

さて、入るか

～保育園内～

確か佐古さんが、入るときこれ着ろと・・・・・

～少年着替え中～

なるほど、これはボディーガードマン的な服ですね

サングラスもあるとは気の利いた事を・・・・と、弁当の時間は待ってくれない・・・

奏　「織田さんではないですか」

織田　「・・・・奏君それ、速く渡さないと」

奏　「あ・・・・そうだ・・・」

～教室内～

瀬川　「は？弁当？」

空　「ど、どうしよう！！そんなの用意してないわよっ」

奏　「ですよねーー」

僕は何故か座ってしまった・・・・何故だろう？

空　「え・・・なんでいるの？」

ここは、いつかのお返しをしてあげよう・・・・

奏　「あ・・・お弁当です」

空　「え・・・？スルー？」

奏　「仁村さんががんばって作ったんですよ」

空　「ねぇ・・・・」

奏　「仁村さん、凄いですね・・・・本当に」

ちなみに、織田さんも座ってるぜ

～25分後くらい～

うん、なんか、作者が翔訳しやがった・・・・

というわけで、説明

1・・空さん泣く　2・・伯母さん現れる　3・・なんか、元の家に住むらしい　4・・織田さん喜び

5・・家族愛発揮　6・・僕が家族入り

位だね、なんでなったかって？　伯母さんが5年生の子が一人暮らしなんて駄目だからといい

まぁ、僕に親戚ができたんですよ

～次回に続く～

美味しんぼは役立つ漫画　そして、家族入り（後書き）

駄文&略しすぎました

引越し～前編～（前書き）

駄文です

引越し～前編～

この僕　橘　奏は美羽さん達の家に引っ越すことになった

何故かって？それは簡単だよ・・・・・伯母さん（瀬川さん親戚）が五年生が一人暮らしは駄目！！

といい僕は、瀬川さんの親戚の家に引っ越すか、それとも児童施設に引っ越すか？と言う状態の時に瀬川さんが「家来いよ」といってきたのでいくことに

本当助かるよ・・・・セーーーーーー川ーーーーーーーーークーーーーーンーーーー！！！・・・は

そして、今日は荷物を持ち出す日なんですよ・・・はい・・・マジで荷物運びを手伝ってくれるのはアメフト部の人達です

アメ部１「荷物て案外少ないな・・・・」

アメ部２「まぁ・・・・あれだぜ、どうせ　他人（ひと）の家にたくさんの物を持ち込んじゃ迷惑て思ったんじゃないのか？」

アメ部１「なるほど・・・・ＯＫＯＫわかったぜ」

アメ部２「わかったか・・・筋肉・・・」

アメ部１「な・・・・・・お前も筋肉じゃねーーーーか！！！！」

アメ部２「黙れ。筋肉だるま！！」

といい、喧嘩がよく起こった

～小鳥遊の家前～

奏　　「ありがとうございました・・・」

何故だろう、運んでないのに疲れた

アメ部１　「じゃ、荷物運ばせてもらいますは」

奏　　「よろしく、お願いします」

アメ部２　「さて・・・運ぶか・・・」

うん・・・・この二人・・仲悪すぎ！！！

車のなかじゃ、悪口をいいあい　　今じゃぶつかりあってる

あ・・・荷物が落ちていってる

あーー、拾っていかないといけない

拾いながら考えた

生きるとは傷つくこと・・・死にたくなって自殺をして、結局は死ぬ前に傷つく、そうだ・・・結局死ぬにも傷つくことが必要なこの世の中・・・・・痛みをしらずに生きるなんて無理だ・・・なら、痛みと向き合おう・・・

そう決めた僕はまた一段と大人の階段を上った

～玄関～

もう・・・ダンボールの中身全部落ちたじゃないか！！！

しかもなんか、外で喧嘩してるし・・・もう、あいつらの事なんて知らない！！

奏　「こんにちはーー」

瀬川　「あ・・・・いらっしゃい・・・・」

～次回～

思えばなんでですか？

引越し～前編～（後書き）

駄文でした・・・すいません

引越し～後編～（前書き）

駄文です

引越し～後編～

瀬川　「じゃ、これからよろしくな」

奏　「こちらこそお願いします」

瀬川　「ところで、学校ていつから行くの？」

奏　「学校てなに？」

瀬川　「お玉かシャモジかキュウリ・・・どれがいい？」

奏　「すいませんでした・・・・土下座すればいいんですか？」

瀬川　「土下座はしなくていいからいつ行くか教えて」

奏　「明日にでも行きます」

瀬川　「そう・・・・じゃあ、ちゃんといけよ」

なんか、瀬川さん空さん達と喋ってるときよりなんかキャラが違う・・・・なんで？

まぁ、学校か・・・・行きたかったようで、行きたくなかった・・・それよりも今日から美羽さんと同じ家で住むのか

ウフフフフ・・・・・・・いや・・・なんでもありません・・・え・・・なんで、こんな笑いをしたか？簡単ですよ・・・美羽さんと今日から同じ屋根の下で暮らせるなんて・・・・最高じゃないですか

！！

これからは・・・・ばったりなんかも有ったりするかもしれない・・・・え・・・もし、そうなったら僕が悪い・・そんな事は無いですよ、だって、これは「不慮の事故」ですから。

それに、とある過負荷が言っていたじゃないです・・・『だから、僕は悪くない』と・・・ですから、僕は悪くありません

作者　「何故か腹がたった・・・だから、殺す！！！」

瀬川　「何か聞こえないか？」

奏　「聞こえませんよ」

～夜～

奏　「ということで、これからよろしくお願いします」

空　「こちらこそ、よろしくね」

奏　「そして、ちょっと思ったんですけど、空さんをお姉ちゃんと呼ばないといけませんか？」

瀬川　「別にお姉ちゃんて付けなくてもいいんじゃないのか？」

奏　「わかりました、ではお姉ちゃんと付けずに空さんと呼ばせていただきます」

～部屋～

もう、今日は疲れた・・・・うん、疲れました・・・はい、疲れました

あ・・・・アルバムであります・・・・なんで、こんな所にあるでありますか？

ぱらり　ぱらりと僕はめくっていると・・・・・空さん、美羽さん、ひなちゃんの写真があった

そして、もう一つ・・・・美羽さんの七五三の写真がないんですよ・・・・ひなちゃんのはどうした？

あの子は今年で三歳ですから、無いのは当たり前です・・・・ですけど、美羽さんが１０歳ですよ・・・それなのに無い

なんか・・・・・謎ですね・・・

～次回予告～

あ・・・ちーーす、俺神だから、よろしく☆

引越し～後編～（後書き）

駄文でした・・・すいません・・・

学校・・・・はーー・・・・（前書き）

駄文です

学校・・・・はーー・・・

～神様　ワールド～
眼が覚めると・・・・目の前に銀座にいそうなチンピラがいた・・・・

？　「あ・・・ちーーす、俺神だから、よろしく☆」

奏　「あ・・・はい、よろしくお願いします・・・・前の神様はどうなったんですか？」

？　「あーーぁ、ジジイか・・・あいつなら、ギターで撲殺されたよ」

奏　「神様も死ぬんだ・・・・」

神　「つぅーーー、事で元の世界に返りなよ・・・・じゃ」

～現世～

は・・・・、なんか　へんな神様が出てきた・・・・

あれ？ここは？どこ？・・・・・・・・

美羽　「奏君、朝だよ」

は・・・・エプロン姿・・もしかしたら、僕は・・・・結婚したのか・・・・

こんなに嬉しいことはない・・・・

奏　「美羽さん・・・・おはようございます・・・今日もいい朝ですね・・・あ、ちなみにここってどこですか？」

美羽　「え・・・・ここは、私達の家だよ」

なるほど・・・・ここは愛の巣と言う意味ですね・・・・

奏　「美羽さんこどギャフン！！」

く・・・ぎりぎり、言えなかった・・・なに、お玉だと・・・・

は・・・よく見れば・・瀬川さんが・・美羽さんの後ろに・・瀬川さんてもしかしたら・・・・暗殺者（アサシン）！！

おう、怖い怖い

瀬川　「美羽ちゃん、奏君そろそら、食べないと間に合わないよ」

美羽　「はーーい」

奏　「はい・・・」

くそ・・・まさか、結婚していなかったなんて・・・まぁ、エプロン姿で笑顔の美羽さんが見えたんだし・・・いいか

～学校～

奏　「いやーー、久しぶりの学校ですよーー」

美羽　「奏君て学校何日振り？」

奏　「日ですかーー、えっと・・・27日ぶりくらいですね」

美羽　「あ・・それより、ついたよ・・学校」

奏　「美羽さん一つ言っていいですか？」

美羽　「なに？」

奏　「学校に行きたくありません」（笑顔で

美羽　「叔父さんに言つけるよ」

奏　「あーー、なんだか！！急に学校行きたくなってきたなーー！！！速く行こうよ、美羽さん！！！」

美羽　「うん」（小悪魔的笑顔

瀬川さんは・・・やばい・・・あの人は・・最強だ・・・瀬川（父親的な存在なった魔王）に勝てる気がしない

～一時間目～

道徳

先生　「はい、橘君喧嘩した、雅夫君はどんな気持ちですか？」

奏　「わかりません」

先生　「ずっと、立ってなさい」

～二時間目～

体育

先生　「じゃあ、今日はグラウンド４週ね」

女１　「先生・・・調子悪いので休みます」

先生　「わかった・・他に調子が悪い人いる？」

奏　「仮病が酷いの休み「はい、じゃあ始めようか」・・・・」

～放課後～

奏　「はぁーー、疲れた・・」

？　「おいおい、お前なんで学校こなかったんだよ」

奏　「いいじゃん、別に・・・それより、カッちゃん仮面ライダーWのベルト買った？」

カ略　「買ったぞ・・・・今度一緒にガンバライドやりにいこうぜ」

奏　「ＯＫ、王蛇と龍騎でぼっこぼこにしてやるよ」

？　「あ・・俺の事忘れてるだろ！！」

カ略　「大丈夫だ、影下ちゃんと覚えている」

影下　「あーりょかった、安心した・・・うん、そうだ今度俺とやら「「断る！！」ちょ、ひどいよー」

こうして、久しぶりに行った学校は楽しく一日を終えた

～次回予告～

思えば、鮭弁当とシャケ弁当て何が違うんだ？

学校・・・・はーー・・・・（後書き）

駄文でしたがすいませんでした

初めてのお使い（前書き）

駄文です、そして、受験勉強で全然書けません。
そのことをいわずにすいませんでした。

初めてのお使い

～小遊鳥家～

奏　「は～～、久しぶりの学校で疲れた～～」

美羽　「今日は奏君たくさん当てられたもんね」

奏　「ええ・・・・確か、２９回当てられました・・・というか、僕しか当てられません」

美羽　「ドンマイだよ、奏君」

と、こんな会話をしてかれこれ３０分が経った。

～３０分後～

空　「ただいまー」

ひな　「たいだいまだお～～」

美羽　「おかえり、お姉ちゃん、ひな」

奏　「おかえりなさい、空お姉ちゃんとひなちゃん」

一応僕は、お姉ちゃんと付けることにした。

奏　「空お姉ちゃん、ご飯にする？お風呂にする？それとも、僕？」

空　「奏君で」

奏　「え・・・・空お姉ちゃん・・・それは、ちょっと引くよ・・・」

美羽　「うん・・・・私もちょっと引く・・・・」

ひな　「ひなもひくお～～」

空　「酷い！！みんな酷い！！」

といいながら、走って自分の部屋に・・・・

空　「痛い！！」

ドンッ！！という音が聞こえたから、たぶん空お姉ちゃん部屋の入り口の段差に足がひかかってこけたんだろな～～～と、そう思いながら僕は冷蔵庫を開けてみた・・・・・

奏　「全然・・・ないですね・・・」

僕は冷蔵庫をがさがさと漁ってみた・・・・あるものは、トマト、トマトソース（？）、キャベツ、白菜、豆腐、お茶、冷凍食品、うさちゃんソーセージ、ソース、マヨネーズ、ケッチャプ・・・・・これで何が出来るんでしょうか？

野菜炒めですか？わーーー美味しいそうですね・・・・味付けは、ケッチャプとマヨネーズとソース・・・・あ、前世のとき僕はそれで一日分の食事をすませた覚えはありますよ、ですけど・・・味は・・・不味い！！！

奏　「美羽姉さん冷蔵庫の中身なにもないので買いに行ってきます、答えは聞いてない」

美羽　「あ・・まって、私も行く、ヒナもいくよね？」

ひな　「うにゅ～～、いく～～」

美羽　「お姉ちゃんいく？」

空　「私はいいよ・・・・」

美羽　「じゃあ、お留守番お願いね」

～デパート～

いや～～、いつきてもでかいな～～このデパートは・・・・本当にでかいや

美羽　「えっと、今日持ってきたお金は１５６９円」

ひな　「美羽おねえたん、チョコレート食べたい」

美羽　「ごめんね、ひな今お金ないから・・・・買ってあげれないの」

奏　「美羽姉さん・・・・お金ならありますよ」

といい、僕は自分のポケットから財布を取り出し中身を見せた・・・１円、５円、１０円、５０円、１００円、１０００円、壱万円と入

っています・・・黄金律は伊達じゃない！！

奏　「これを、使ってください」

といい、僕は財布の中からお札を取り出した

美羽　「え・・・奏君これ・・・・５００円札だよ・・今は使えないよ」

奏　「あ・・・間違えた！！これです、どうぞ」

といい、僕は壱万円札を渡し買い物をし始めた

奏　「思えば、鮭弁当とシャケ弁当て何が違うんだ？」

美羽　「え・・・それは、さけは「サケ科」の事を指してるんだよ。そして、しゃけはサケ科の中の「白鮭（しろざけ）」と言うものの別名と言われていまるんだよ。それ以外にも、単に地方での呼び方が違うていう事もあるんだよ」

奏　「物知りですね～～美羽姉さんは」

美羽　「そんなことないよ」

と、こんな会話をしながら僕達は買い物を終えて帰ってきた

～自宅～

奏　「ただいま、戻ってきました～～」

美羽　「ただいま～、お姉ちゃん」

ひな　「ただいまだお～～」

空　「おかえりなさい、奏君お風呂にするご飯にするそれとも、私？」

奏　「え・・・じゃあ、お風呂で」

～次回に続く～

家族（？）と一緒（前書き）

駄文です

家族（？）と一緒

奏　「え・・・じゃあ、お風呂で」

空　「私じゃないの？」

奏　「はい、空お姉ちゃんではなくて、お風呂がいいです」

空　「お風呂に負けた気分・・・」

美羽　「お姉ちゃんどんまいだよ」

ひな　「空おねえたんどんまいだお～～」

と、二人で空お姉ちゃんを慰めていた・・・・ここは・・・・空気を読んで・・・

奏　「空お姉ちゃんどんまいだよ！！お姉ちゃんの胸はまだ、成長あんまりしてないけど・・・これからだよ！！」

空　「うわぁぁぁぁーーーーーーーーん！！！！！！！！」

美羽　「お姉ちゃん！！」

奏　「悪気があったんじゃないんだが・・・」

と、僕は罪悪感を持ちながら、お風呂場

～お風呂場～

やっぱり・・・前の家のお風呂じゃないから緊張する・・

奏　「やっぱり、緊張する・・・」

そりゃ、好きな人が入っている風呂に入るのは緊張する・・・なー

ー、これは・・・下着

～途中

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6736y/

パパのいうことを聞きなさい、違う！！パパは俺じゃない！というか、家族じ

2011年12月24日10時48分発行